

刊夕日一十月八

常警每日新聞

定額 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
廣告料 五圓以上一圓以下 一圓以下五分
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社
電話 六〇〇〇



盆踊考

△ 生

常陸風土記に「筑波峯之會、不得嫁財者兒女不爲矣」
（註二）とあるし、萬葉集の記載せる長歌に據れば、

わしの往む筑波の山の、もはつきのその津の上に、誘ひてをとめ男の子の、往きつどひかふかふかに、人づまに我も交らん、わが妻に人も言問へ、この山のうしはく（曰ク、領するごと）神の、初より禁のぬ業ぞ、今日のみは、目ぐしもな見て、事を答むな。

「この山のうしはく神のいさめぬ業」であつて、これら男女の集合が、全くの妻覓ぎであり、野に集ひ、歌を結び、歌を唱して「神事」による信仰に觀念づけられ、性的自由解放を意味し「一人妻に我も交らん、吾妻に人も言問へ」であると共に、此際を以て意氣の投合せる男女はめととの未來を契るのが常であつた。

この大切であつた。然も此の神籠は高懸によるもので、唯一と考へたのである（註四）

かくして、大昔の歌垣の如き民俗が、今日まで遠江國榛原郡川根地方及び駿河口志太郡伊久兼地方の村落

【朝】味噌汁：里芋 小付
【書】煮付：鱈 あられ生 妻 小付 蛤結雨煮
【晚】冷奴：花かつを 薬 味 小井 さつま芋 ふくめ

に、ヒヨドリ踊と稱し傳習されて居ることである。即ち、茲に掲げて御参考に供すれば舊正月七日の夜より明日の朝まで、近郷の多數の未婚男女が相集ひ「一心よく持、峯の松、心わると男が歌へば、女は「心悪くばらぬが、立場悪くて風にあふ」と之に和し、歌を唱應し乍ら踊り狂ひ、その場合に於て婚約が成立すると云ふ。

（註九）
いかに太古の婚會の面影を如實に物語るもではなからうか！
以上櫻の考證は此の程度に止めて置き、後章に於て詳説した。

註一 田中瀧氏著「日本の民俗の考證」に據る

註二 同書掲載

註三 日本歴史地理「茨城縣」より

註四 中山太郎氏著「本邦に於ける高媒信仰より採萃す」

註五 同書の掲載による「越後風俗志」

2、巫女の禮懸
古代の日本に、一番恐ろしいものは天變地異であつた

その天變地異のあるたび、これを占ひ、それを祓つたのが陰陽道であつて、陰陽道は當時の科學であり宗教でもあつた。
家は地震によつて破壊し、雷は驟雨と共に落雷して火は其の猛威を逞うした
慧星が深夜を脅かし、日食がやみを弱し、日中と云ふに狐は宮殿内で鳴くと風もないのに大樹が倒れたり此豫期せぬ變事を目のあたり見せ付けられた時彼等は恐怖と戦慄とで胸も破けんばかりであつた。

御新盆提灯

●御戒名提灯
●特製スソ模様入レモ出来マス……
●岐阜提灯・變形提灯
……各種取揃へました……
是非御用命は！格價低廉の
スガノヤ提灯店
平・四 電話九五番

御位牌と品よい
佛壇佛具 安い
平・新川町
橋本屋
電一六三

暑中御伺
時節柄宣傳には……
是非！チンドンヤを
御利用下さい
委細は平町仲間町六九
丸屋春日亭米之へ
放天楽館
前驛野上京東
角通横局便郵谷下
番七七六園谷下話電
私は平町出生ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 **比佐棟雄**

工場員募集

◇平工場作業員 二名
三十歳前後
◇川崎工場見習 二名
十六、七歳前後（賄付外手當支給）
希望者は至急來談あれ
特許 石綿ムシカマド製作所
平材木町（電話一三七番）

歯科口腔外科

レントゲン科

院長 東京齒科大學士 原 精一
平町土橋通り
電話三一三番
原齒科醫院

菊地洋服店

永年東京陸軍砲工學校の御用を承り居りましたが今回當地出身將校各位の御聲援を賜はり左記へ轉居開業軍服調製に専念致し居りますから何なりと御用命の程御願申上げます
尙原品は凡て階行社取扱にて軍裝品一般についても御便宜取計ひます
平町田町九十七番地
店主 菊地 一郎
電話（呼）二八番
◎裁縫師、徒弟入用

空襲來の

監視聯絡の爲め

演習前に警察電話擴大

平町は来月十一、二兩日縣下一齊に執行される防空演習に關し既報の如く聯合防護團を組織、その組織下に町内を三方部に大割した方部防護團を結成して全く準備を完了、今後は縣、軍部と聯繫假裝投下彈に依る出火、毒ガスの襲來等の想定

「護れ大空！」

町内に掲示して

完璧の演習効果に努む

平町は別項の如く防空演習に對する諸種の準備を終了すると共に演習期日も切迫したので縣から配布されたポスター「護れ大空！」を町内極要の個所に掲示して防空演習に對する町民の注意を喚起、完璧の演習効果を擧げることになつた

自營會の

評議員會

平自營會は来る十五日午前十時から平署會議に第一回評議員會を開き九月十三日全國一齊に行れる司法保護デールの宣傳方法其他種々協議する由

建設費は

年賦償還

磐城會館計劃 同窓會で協議

磐城中学校同窓會は既報の如く昨日午後一時から同校で開き庶務會計報告、校醫酒井國三郎氏動積四十年表彰、磐城會館東京市建設の件を附議、同時に左の如く役員改選を行つたが校醫酒井氏の表彰は来る十一月三日の明治節の佳節に行ふことに決定、磐城會館建設は今月末更に具體案を持ち寄つて決定することになつたが同會館建設費は一萬二

兒童籠球

來月九日開催

郡下の各小學校兒童籠球部は目下休協石城支部主催の大會議を目前に連日猛練習を行つてゐるが同大會は来る九月五日平第一、第一兩校庭に開催と決定した由

平局野球應援

千圓で一般の寄附を求めず十ヶ年賦で借り受けることになり將來は前記警中平商兩卒業生以外の學生をも收容することになる豫定である

- 會長關内正一 副會計野崎喜八郎 幹事兼會計山崎忠兵衛 幹事松本榮一
- 同松井深 同上田耕作 同原精一 同熊谷保高 同中野真次 同市井茂

東北一の高値で

倉庫に菜種充滿

製ダル努力

既報郡下の菜種は過般決定した一袋十圓四角と云ふ東此一の高値で石城販利が買上げて居るので同販利の平農倉には既に四千俵の菜種が在庫し目下四倉搾油工

昭和絹の引込線

第二次擴張を行ふ

既報錦村昭和人絹工場は硫酸工場増築の爲め去月下旬勿來驛では同工場専用の引込線を擴張したが今度は過燐酸工場増築に備へ近く同

常磐軟式野球大會は九日植田小學校庭に開き成績左の如し

小名濱の野球

濱野球協會主催の部落對抗野球大會は来る十六日午前十時から同町臨海球場で舉行優勝チームにはカップを授與される

平町人喜

- △長橋町二四泉千代治氏長男博さん
- △五丁目一〇草野源吉氏五女美智子さん
- △四丁目二三當時双葉郡新山町宇新山會田一郎さん

四倉から

八月六日(まれ)に見る快晴我等臨海學校の生徒の心は躍りに躍る。赤ふん赤朝の姿で朝の行事、海岸散歩にラデオ体操、水天一色の彼方に帆影が見える、實に壯快の極みだ。朝飯後朝の勉強を了へてからすぐさま海岸へ行く、今までのない人出だ。砂濱は男女老若の人々でうづめられた。波は静かだ海は鏡のやうだ。波取にたはむれるもの波にもまれるもの實ににぎやか!!

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話 六八番

醫學士 吉田久雄

利息割戻 特典付 不動産擔保貸付

- △今回低利斬新ナ不動産擔保貸付ヲ創始致シマシタ
 - △詳細ハ最寄本支店デ御尋ネ下サ
 - △當行ハ至ル處極重要地ニ營業店ガアリマスカラ手数料費用ガ少ク且ツ敏速ニ御利用ガ出來マス
- | | |
|------------------|----|
| 有價證券擔保 | 貸付 |
| 同倉庫證券擔保 | 貸付 |
| 同農産物擔保 | 貸付 |
| 同肥料購入組合 | 貸付 |
| 同納税組合 | 貸付 |
| 同貯金組合 | 貸付 |
| 同其仙各種産業組合公共團體 | 貸付 |
| 同荷付爲替手形商業手形ノ割 | 貸付 |
| 同引以上簡便低利ニ御取扱致シマス | |

早速はじまつた。相撲、六ノ一組對六ノ二、三組の角力だ。最後の小山中デブ君と鈴木英藏君と戦は勝つか負けるかの戦だ。組合ものは共にデブチン、人脈のあがる事は大したものだ。遂に小山デブ君は折棄られた。それから築港での水泳大部上達したものだ。黒い肌の河童が氣持よく泳ぐ。内中島寫眞屋さんと校長先生がお出になられた、築港内の箱船に上つて記念撮影した。皆な小船で船に運ばれた一瞬の間の静まり、ハ、パチリ終りました。船からのかへりに先生に引か

れて泳ぎ起したのもあつた。飛込むやいなや先生の首にしがみついて二三度海水を飲んだ先生もあつた。午後は海氣舗の前で水浴をやつた。皆夢中である。バタ泳の練習だ。午後四時頃西の空がものすごくくもつたピカリゴロ／＼僕等は魂消してヘソをかくしながら宿舎に引上げた。ものすごい雨、まめのやうな大粒の雨午後六時半頃川崎小島先生お出になつた。僕等のため面白い話をして下さつた僕等は何しろうかされてゐるねむたい。八時半頃床についた。

緩るむ氣を

如實に裏書

平驛の忘れ物 小骨董店の觀

夏の旅行は兎角 旅客の氣の緩み から忘れ物が多 鐵道の係員を面喰はせて みるが七月中の忘れ物につ き平町玄關口平驛について 調べると總數二百五十五件 に達し一日平均八件又は九 件で案外馬鹿にも

出來ない 有様、あわ て物の心境を如實に裏書し てゐるその中で最も多いの は手輕な風呂敷包の置き忘 れで四十九件、次いで夏の 付き物カン／＼帽の三十八 件、次はズツと減つて雨傘 洋傘等の十數件で

勿論中味 は洗面道具 の貧弱な物であるが甚だし いのはトランクを忘れる者 も居る程で同驛の遺留品預 り場所はこれら忘れ物で小 骨董店でも開業出來そうで ある世の中には慾の無い者 も随分多いことを想はせら

敷地ぐるみ 公會堂寄附 神谷出身の八幡氏 神谷村大字上片寄出身の八 幡喜一郎氏は青年時代血氣 にはやつて法にふれ出獄后 裸一貫で臺灣に渡り臺北市

日中同村秋野倉太郎氏管理 の公有林二畝五反歩に亘つ て萱の生育を計るため所轄 警察官の許可なくして火入 したと發覺、平署で森林 法違反として取調べ中であ るが同村にはさきにも同様 森林法に關する違反事件が 頻々として惹こるため嚴重 追求中

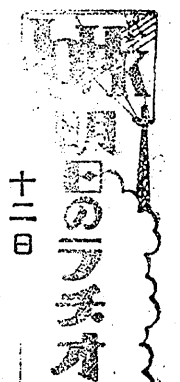
納涼風景の 平町三 井吳服店横町の平窪村野菜 市は毎夜黒山の大繁昌で一 種の納涼風景を描き出して 居るが夫れの向ふを張る氣 が好間村でも紺屋町廣小路 の門傳辯護士前に野菜の店 を並べ附近の各家庭に便宜 を與へて喜ばれて居るが 蔭で同所附近は頗る賑ひを 呈し他の夜店までその餘澤 を蒙つて納涼客を集めて居

無斷火入 平署で檢舉 箕輪村大字高野山林四番組 長吉田肇(五)同村植林委員 小沼未造(四)同吉田喜一郎 (五)の三名は去る五月十三

死出の名残り 海岸アベツク 遺書に驚いて搜索願 同校講堂に第六回同窓會を 開いて卒業生の親睦を計る

蠅取競技 受付開始 本番高 主催の蠅取競技會受付は十 一、二兩日行はれてゐるが 本十一日の受付は午前中 で三百餘人八萬餘匹のうち 最高は研町の丸井屋砂糖店 の一萬匹他にも五千餘匹の

第三校同窓會 平第 三小學校では來る二十三日



今晚の部 今夜も明日も南 の風曇時々晴後 驟雨模様

今晩の部 後六、〇〇 京城より 傳 説童話「豆摘み婆さん」と 虎一雀南善(京城一金澤) 後六、二五 趣味講座 史 蹟巡り「宗長法師と柴屋 付近」野崎幸雄(静岡) 後七、三〇 講演「羊毛の 代用品に就て」吳祐吉 後八、〇〇 ラヂオオコメデ

紹介所に寄附 平町 四軒町二〇馬場豊次郎氏は 今回平町職業紹介所經費と して十二圓二十六錢を寄附 した

平扇の消印 駐落者の行衛 茨城縣西茨城郡岩瀬町藥種 商榷戸忠義(三)は去月廿三 日夜現金四百圓と貯金通帳 を所持して豫て情を通じて るた自宅附近カフエーモン パリー女將馬目とき(三)と 謀し合せて妻子と祖父母を 置き去り駆落、家人が捜査 中だつたが去る八日女の實 家へ平扇の消印ある音信あ つたため疑された妻女のち よのさん(三)は細腕に四人 の子供と九十餘歳の祖母を 抱えて生活苦から本十一日 平署へ捜査方を願ひ出した

滞在客が逃走 岩手 縣盛岡市伏木町三九生堂時 任所不定温泉師釜澤幸(四) は去月十五日以來友人の小 野寺誠(三)と共に平町紺屋 町四三旅人旅清水屋方に宿 泊、同月卅一日夜宿泊料十 一圓餘を踏み倒して逃走清 水屋方で告訴したので目下 平署で行衛嚴探中

裁判一東 既報伊達郡梁川町宇大町 生れ目下内郷村大字小島宇 新町古物商佐藤大二郎方雇 人安戸(三)に係る窃盜傷 害強盜及び公務執行妨害 事件は陪審裁判を今十一日 辭退したので近く平支部で 中島裁判長係り香西、野木 兩判事陪席氏家檢事立會の 下に公判開廷されると

宿泊料を踏み 小名 濱町宇中島下宿業大衆館宿 泊安達郡高村生佐藤正義

明日の部 前六、三〇 英語會話講座 ジョンスバークー 前七、〇一 朝の修養(ひ がらしす)石川謙 前七、四一 中等夏期講座 「補物」京道信次郎 前八、一〇 小學生おさら への時間「理科」佐々木榮 壽 前八、四〇 婦人夏期講座 「今日の文化」川原次郎吉 前一〇、三〇 家庭講座 子供と母の歌のお稽古 古 弘田龍太郎 後八、〇〇 手風琴獨奏と 合奏 トンボ手風琴パン

料歩合 雑夫 廿才 迄給八圓 出前持 十八才 迄給五 圓 職を求めめ方 店員 十八才 高卒 女中 十五才 高一修 職工 十八才 高卒

玉屋洋品店 平町田町通電話六五六番

耳鼻咽喉科専門 平田町(電話六九番) 病室完備 自炊便有 山内醫院 醫學士 山内亨 吉

繞る瓦解の令

（著上級上）
悟道軒圓玉（作）
尾・至陽（書）



一九四 與四郎を換縦
善助は與四郎の顔を見て
クスリと笑つたが

善「あなたの阿父さんがな
くなる時に此家の旦那にあ
なたの行末を頼みその時に
あなたを鹽の利かぬ人間だ
といひましたか」

與「ウムそんなことをいつ
たよ、親父は俺のえらいこ
とを知つてゐたア」

善「あなたは長壽をするア
鹽の利かぬといふは甘いとい
ふことで甘いといふことは
馬鹿のことですよ」

與「それは飛んでもねえこ
とだ、俺は馬鹿ではねえ、
人間のすること何んなこと
でもして見せる、飯を食へ
ばとて箸を持つて食へる、
また酒を飲めばとて杯の猪
口で飲む、客が来ればよく
お出でなさいましたと挨拶
もすれば、雨が降れば天気
が悪い、日が出て居れば良
いお天気でございますとい
ふ」

善「そんなことは誰でもいひ
ます、時に與四郎さん、あ
なたはお静さんを御新造に
してこの身代を受け續ぐ思
召ですか」
與「それは伯父さんも承知
だ、おしづだとも●の事

は知つてゐる、今體が悪い
から儀式は擧げぬが、おしづ
の病氣が治れば早速婚禮を
する」
善「へエー、それはあなた
の考へが違ふ、おしづさん



はあなたを嫌つてゐますと
ころへ持つて来てこゝへ強
敵が現れました、その強敵
といふの戰場より逃げて來
たあの土井伊織、あれはあ
なたも御存知の通り美男で
ございませぬ、おしづさん
が想をかけるも無理ではな
い、あなたと比べると雪と
墨、念の爲におことはり申
しておきますが、むかふが

雪であなにが墨だ」
與「馬鹿なことをいふな、
如何に俺の色が黒くても墨
よりは白からう」
善「まアこれはたとへてい
つたことですが、しかし土
井さんとあなたとは大した
違ひ、八幡太郎、番太郎、
能登守に鼻つ紙ほどちがひ
ます、まアおしづさんはあ
の土井に付添つて負傷の看
病をしてゐます」
與「オイそんなことはかま
はねえ、あれは今にこゝの
家からゐなくなる、奥州へ
行くとかいつてゐたせ」

さうなるとあなたが邪魔だ
そこであなたがこゝにゐら
ぬ様にしませう」
與「出て行けといつても俺
は出ては行かないよ、命の
あらんかぎりこゝにゐる」
善「あなたはさう思つても
こゝにゐることは出来ませ
ん、それでもあなたが辛抱
すれば何んとか狂言をかい
てあなたを外へ引き出して
バツサリと殺つてしまふ」
與「バツサリとやるとは何
んなことだ」
善「土井様は侍です、それ
には戦をして血を見てもお
どろかねえ、したがつて人
を殺すことは暗の晩に蛙を
ふみつぶした位に思つてゐ
ます、まだあなたをこの根
岸の護院殿に引き出すとか
か、三河屋へ伴れ出すとか
さもなくば向島へでも引き
出して殺しますよ」
與四郎これ聞いて腰を
おさへ

與「それは大變だ、俺は刀
は大きらひ、ピカ／＼と光
ると魂ひがつかめたくなる、
一体刀は人を斬るものだ
あれで澤庵の香々をかくや
に切るものはなからう、ど
うしたらよからう」
善「今のうちに用心をなさ
い、遠きおもんばかりなり
なき時は近きに憂ありと申
すこともございませぬ」
與「そのおもんばかりとは
どんなことだ」
善「これは内々のこと……
ちよつと耳おかをしなさ
い」
與「俺の耳は取はづしにな
らねえ——」

善「それは判りませぬよ、
女の燃れる黒髪には大家も
つなぐといふこともあり、
おしづさんの親切に感じて
嬉しいの仲になり、それから
先はこゝの婿になりませぬ
う、旦那とて我子は可愛い
娘の氣にいらぬ與四郎を婿
にするより土井を婿にして
その身上をゆづらうとかう
思ふに相●ございませぬ、

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	茶
堂		

平・田町
ラレストサロン
電三五二番

三井タクシ
番五八六電・二平

御中元御贈答品御案内

先づ最も重寶な
商品切手

入	入	入	入	入
入	入	入	入	入
入	入	入	入	入
入	入	入	入	入
入	入	入	入	入

タラ箱入 3本本 5本本 6本本
半布箱入 1打打 1打打 1打打
香 下 1打打 1打打 1打打

ワイシャツ及び下着シャツ類
其の他化粧品・石鹼・洋品類

實用向贈答品
店内に澤山陳列して御座い
ます。是非御來店の程御待
ち申して居ります。

ヤルツ
四・〇四一電・平

藤寅
電話一四一番

毎度御引立を戴いてゐる
冷たい美味しい飲物
アイスクリーム アツキアイス
ミルクセーキ ソーダ水
ミツ豆クリームソーダ
其他氷水各種
相初めました。是非夏の夕の御散歩歸へりに御立寄り
下さい。

（出前）
（迅速）
平一丁目

夜間
診
病性腸胃
皮膚科 性病科 花柳病科 胃腸病科 内科
院醫性病腸胃村松
(番〇七一町南町平)